

今回テストしたのは  
この2台



**XL883R**  
編集フジタの愛車。スポーティな走りが好きなフジタは高回転を多用するため、普段から高温になりやすい

**FLSTC**

編集部所有のツインカム96。取材で都内を移動することが多いので、よく渋滞にはまる可哀想なヤツ



オイルの  
違いは必ず  
体感できるのだ。

**真夏の渋滞にハマるのは  
エンジンのには一番キビシイ!**

空冷Vツインは真夏の渋滞が最大の敵。特に排気量が大きいハーレーはアイドリングで発生する熱量も相当なものだ。通常、エンジンが高温になるほどオイルは金属面の潤滑保護やシリンダーの密閉といった基本性能が落ち、熱ダレや焼き付きの原因になってしまうが、MOTO4 TWIN TECHは最新の化学合成技術によって油膜切れしにくく、酸化による劣化も抑えられているから、高い保護性能が長時間持続するのだ

point /  
**2**



真夏にエンジン回転数が不安定になったり、パワー感がなくなった経験はないだろうか？ そう感じた時はすでにエンジンにかなりの負担がかかっているのだ

高温になるエンジンをしっかり保護する。  
モータースポーツ好きならずともエルフの名を知っている人は多いはず。母体となっているフランスのトタル社は原油採掘から精製まで一貫して行う世界第5位の総合エネルギー企業であるが、これまで同ブランドのオイルはハーレーユーザーにはなじみが薄かった。しかし、空冷ビツグツインにターゲットを絞った、この「MOTO4 ツインテック」の登場によって、ハーレー用オイルの新たな定番ブランドになりそうだ。  
ハーレーに使用されるオイルは粘度20W・50が一般的。しかしこの新オイルは20W・60と、少し固めに設定されている。その理由は空冷エンジンの「冷えにくさ」にある。真夏に長時間高速走行をしたり渋滞にハマった上りした場合、油温は瞬く間に想定以上の高温になる。するとオイルは粘性が低下し、結果、熱で膨張

したピストンとシリンダーの抵抗が増して摩擦が促進したり、最悪の場合焼き付きなどのトラブルを引き起こしてしまう。60という高粘度設定は、大排気量&高トルクで熱量の大きいハーレーエンジンにとって大きなアドバンテージになるのだ。  
実際、編集フジタの883Rと編集部FLSTCに入れてみたところ、高速道路で高回転域使い続けるシーンではメカノイズが軽減され、がさつな回転フィーリングも穏やかになった。また、化学合成油の効果かわずかに始動も軽くなったように感じられた。  
数時間の試乗で体感できる性能はわずかだが、シーズンを通して使えばその差は大きいに違いない。日本の夏は猛烈に暑いだけに、高温での高い保護性能をもつこのオイルはこれからのスタンダードになるはずだ。

**オイルはなぜ汚れるのか、  
汚れるとどうなるのか。**

数千キロ使用したオイルは真っ黒に変色する。その主な原因は燃焼室から漏れてくるブローバイガスと呼ばれる未燃焼ガスなど酸化化合物で、エンジン性能を劣化させる物質。オイルにはこれらを清浄分散する役割もある。このブローバイガスはオイルを酸化させ、潤滑性能を落とす原因物質だが、elfの全化学合成油は高い酸化安定性、せん断安定性をもち、過酷なシーンでもしっかりエンジンを保護している

point /  
**3**



新しいオイル

古いオイル



**クリアランスが大きい  
旧車は鉱物油を使うべし!**

全化学合成油は低温での流動性に優れているから保護性能が高く、エンジンの始動もよくなる。しかし、旧車のように工作精度が低いエンジンには不向きと言える。そこでelfでは旧車向けに鉱物由来の高性能オイルもラインナップ。良質の鉱物油に潤滑性、摩擦防止性に優れた添加物を加えて高めの粘度設定にすることで、クリアランスの大きなエンジンの保護性能を高めている。また、シールやガスケットへの攻撃性も少なく、オイルにじみもしにくい

point /  
**4**

**MOTO4 CRUISE**  
20W-50  
1ℓ:1785円 4ℓ:6783円

# エンジンの 熱中症対策には、 ツイン専用設計の 高性能オイルだ!

brand elf  
oil **MOTO4 TWIN TECH**  
type 20W-60 全化学合成油  
price 1ℓ:2625円

空冷の大排気量エンジンは熱が逃げにくく、特に真夏に渋滞にはまってしまったらシリンダーにダメージを与えることがある。そこでelfのツイン専用オイルで“エンジンの熱中症”をしっかり予防!



text/Y.Fujita 藤田佳照  
photo/N.Shibata 柴田直行  
問い合わせ  
トタル・ルブリカンツ・ジャパン  
www.elfmoto.jp



**空冷Vツインエンジンの性能を  
最大限に生かすオイル特性なのだ。**

オイルの粘度は下の写真のような数字で表される。左が低温時の粘度で数字が低いほど寒くてもオイルが固くなりにくい。一方右が高温時の粘度で数字が高いほど高温時も粘度が保たれる。ハーレー用オイルは20W-50が一般的だが、MOTO4 TWIN TECHは20W-60で、真夏の渋滞などでエンジンが異常に高温になってもしっかり潤滑して機関部分を保護する。この60という数字は他ではほとんど見られない特殊な物で、空冷ツインに特化した設定なのだ

**20W-60**

point /  
**1**